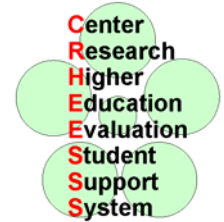


週刊センターニュース

No.124



第124号(2006年9月4日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第9回金沢大学教養教育全学研究会のご案内 ○●○

日時: 平成18年9月11日(月) 13時~17時

会場: 金沢大学総合教育棟 A1 講義室

プログラム:

- 第1部 司会 細見 博志(金沢大学共通教育委員会FD委員会委員長・医学系研究科教授)
講演 「2008年度カリキュラム刷新要綱について」
高田 重男(金沢大学全学カリキュラムWG座長・医学系研究科教授)
- 報告1 「導入科目の中間総括」
古畑 徹(金沢大学共通教育機構長・文学部教授)
- 報告2 「英語新カリキュラムの中間総括」
澤田 茂保(金沢大学外国語教育研究センター教授)
- 報告3 「PC必携化と情報基礎教育の中間総括」
松本 豊司(金沢大学総合メディア基盤センター助教授)
- 報告4 「アキャンサポータルの中間総括」
堀井 祐介(大学教育開発・支援センター助教授)
- 第2部 パネルディスカッション「2006年度の新カリキュラム・新システムを中間総括する」
司会 西山 宣昭(金沢大学大学教育開発・支援センター助教授)

○●○ 学生アンケートについて、ご意見をお寄せください ○●○

平成18年度第3回(拡大)学生支援プロジェクトを以下のように開催します。プロジェクトメンバー以外の方々にもご参加いただきたくお願いします。

日時 9月7日(木) 16時30分~17時

場所 角間キャンパス 総合教育棟2階 会議室

テーマ 10月実施「学習環境改善のための1年生アンケート」について

趣旨 2年に一度実施してきた学生生活(実態)調査について、今年度はアキャンサポータルを用いたネット上のアンケートとし、対象も1年生限定、あわせて質問項目も学習環境への提言に直接結びつくような項目に絞るというドラスティックな変更を加える。プロジェクトメンバー以外の教職員・学生にも広く呼びかけて、最終案のとりまとめに向けた意見をうかがうことを目的とする。
(文責:青野 透 教育支援システム研究部門)

○●○ 北海道大学における本年度からの新しい教養教育カリキュラム ○●○

8月24日の共同学習会でも紹介したが、北海道大学では「平成11年告示学習指導要領」に基づく高校教育を受けた学生が入学してくることに伴って、教養教育カリキュラムにいくつかの変更が今年度から施されている。本学においても導入科目の新設、情報処理基礎の全学必須化、英語カリキュラムの改訂など同様の対応が行われており、ここでは両者を対比しつつ北海道大学の改革の概要を再

度紹介したい。そのポイントは、文系学生、高校での未履修者を対象とする理系基礎の導入科目および文系基礎科目の新設である。

理系基礎科目の高校未履修者への対応については、本学の一部の学部、学科では対応が検討、実施されているところもあるが、全学的なカリキュラムによる対応は本年度からの刷新においてはとりこぼされた部分である。しかし、「一般科目」では従来より文系学生を対象とした数学、物理、化学などの理系基礎を扱う授業が提供されており、文系学生、理系学生の高校未履修者に提供しうる資源はすでに存在している。今年度からのカリキュラム刷新において、「一般科目」は専門の各学問分野の基礎的内容と位置づけられた。つまり枠組みとしては整っており、授業内容の組織的な再検討を行い、各学部による「一般科目」の中からの選択、履修指導を行うという流れが期待される。

北海道大学の全学教育科目は、「教養科目」と「基礎科目」とから成り、「教養科目」は「主題別科目」、「総合科目」、「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）」、「共通科目」、「外国語科目」、一方、「基礎科目」は「文系」、「数学」、「理科」、「実験系」の科目区分を含んでいる。北海道大学の「主題別科目」が本学の一般科目にあたると思われる。「主題別科目」は、「思索と言語」、「歴史の視座」、「芸術と文学」、「社会の認識」、「科学・技術の世界」、以上 5 つのカテゴリーから成る。理系の導入科目群については入門科目 WG において授業内容について組織的に検討され、上記「科学・技術の世界」の中に新設された。導入科目群は以下の通りである。[入門線形代数（高等学校で数学 C を履修していない文系学部生対象）、入門微分積分学（高等学校で数学Ⅲを履修していない文系学部生対象）、入門物理（高等学校で物理を履修していない理系学部生、文系学部生対象）、入門化学（高等学校で化学を履修していない理系学部生、文系学部生対象）、生活と化学（入門化学に続き 1 年次 2 学期に文系学部生向けに開講）]

理系基礎教育についても新たな改善がなされた。従来、理系学生に対して一律に開講されていた理系基礎科目を学部・学科に応じて専門系科目または準専門系科目を履修することとし、それぞれの授業内容が検討された。例えば準専門系の物理としては、基礎物理学Ⅰ（力学 8 回、振動波動 6 回）、基礎物理学Ⅱ（熱力学 3 回、電磁気学 11 回）が用意され、一方専門系の物理として物理学（力学）、物理学（熱力学・波動）、物理学（電磁気学）の計 3 科目が用意されている。化学、生物についても同様である。

理科実験についても「基礎自然科学実験（文系学部生向け）」、「自然科学実験（理系学部生向け）」が新設された。特に「自然科学実験」は、従来の物理、化学、生物、地学の 4 つの実験科目を融合して創設されたものである。このような融合型の理系基礎実験を実施しているのは東北大学、東京大学、九州大学（平成 18 年度より）、北海道大学（平成 18 年度より）など少数であるが、その教育効果に興味を持たれる。

文系学部生に対しては文系基礎科目「人文科学の基礎」、「社会科学の基礎」2 科目が新設され履修が必須となった。人文・社会科学の基本概念、技法などについての講義である（授業開発においては、共同学習会で以前紹介した九州大学、名古屋大学、本学など文学部教員が中心となって検討され 2000.3 に出された報告書「コア・カリキュラム（文学分野）の研究・開発」が参考にされたようである）。

北海道大学では本学と同様に今年度より情報リテラシー関連の科目が全学必須として新設されている。科目区分「共通科目」に含まれる。北海道大学の場合は「情報学Ⅰ」、「情報学Ⅱ」2 科目を用意してそれぞれ 1 年次前期、後期に配当している。

以上、北海道大学の平成 18 年度からの新しい教養カリキュラムの概要を紹介した。北海道大学の教養カリキュラムは「進化するコア・カリキュラム」として平成 15 年度特色 GP に採択され、今年度「ゆとり世代」の学生への対応のためさらにコア・カリキュラムの整備を進めた。本学では理系基礎教育の導入部分についてのカリキュラム整備は今後の課題として残っている。本年度の当センター主催「専門分野別教育開発セミナー」（開催日は現在検討中）ではこの点に焦点を当て議論の場を提供する予定である。

（文責：大学教育研究開発部門 西山宣昭）